

# 孫に語る猫実験

## —公式確認と猫実験の頃

一九五六年五月一日、原因不明の疾患発生の届けをチッソ付属病院から受けたのが熊本県水俣保健所長の伊藤蓮雄である。伊藤はその翌年の一九五七年、水俣湾産の魚介類を猫に与える猫実験で水俣病の発症を確認する。その伊藤氏が公式確認前後の様相や猫実験の詳細を孫に語ったテープがある。亡くなる二カ月前のことだ。「私が水俣病の発見者」という発言をはじめ、日時の混乱、錯誤が見られるが、当時の雰囲気伝える貴重なものである。孫に語る伊藤の肉声が「あの時」、水俣で何が起きていたかを語る。(敬称略)

■「水俣病のおはなし きぬ子へ贈る(祖父より)」(以下は要旨)

水俣保健所 元所長 伊藤蓮雄

平成3年5月29日

<はじめに>

私が昭和二九年一二月、冬の頃です。水俣保健所長として赴任いたしました。その前に人吉保健所長、松橋保健所長を長くやっておりました。

<公式確認前後>

水俣という町は新日本窒素という大きな工場があって、そしてその工場に頼って生きていくような町で、非常に活気のある町でした。

四人の患者さんと思いますけど「看病に来ていた人が、また病院内で発病した。それでほかの患者が騒ぎ出したから、保健所長さん、どうにかしてくれ。」と「これは大事件だ。」ということで、もちろん僕も見に行きましたけど、涎を流してワーワー騒いでいる。

市役所の方が「伝染病というのは、伝染病予防法という法があって、その中に約一〇種類の伝染病が含まれている。それ以外のものは国の法律で入れられんようになって」と、「よし、じゃあ僕は決断しよう」ということで、それが五月の一日か、五月に入ってから会議でしたから、患者さんに病名を付けよう。『日本脳炎疑い』これでどうだろうか?』と言ったら市役所のほうも納得をしまして、「それじゃあ伝染病疑いということで患者さんに移しましょう」と言ったわけです。それが五月一日で現在、公式発表ということになっております。

<対策委員会>

五月二八日に『対策委員会』というのを作って、僕が委員長になりました。リストアップしたら何一〇人か出てきたわけです。それをよく見てみると、漁師か漁師の家族で、漁師といっても一本釣りなんです。当時の熊本県というのは財政再建だったり、貧乏だった。「それじゃあこうしましょう。熊本大学医学部に行って、向こうに頼んで診てもらって、そして大学には無料のベッドっちゅうのがあります。そこに入ると無料で治療してくれるところ

がありますから、そこに頼みましょう」と。

#### <猫実験始まる>

ある土曜日の午後はずっ〜と海岸を散歩しとった。ところが向こうから小学生が三〜四人ガヤガヤと来るから「おい、この海には魚は泳いでくるか?」と聞いたら「なんかフラフラして、死んじゃおらんけど元気のなか魚が泳いでくるよ」と、「じゃあそれを猫が捕って食うちゅうことはないか?」と言うと「おじさん、あるよ。誰々とかの猫は泳いできた魚を爪で引っ掛けて、そして食べて宙に舞うたばい」と。宙に舞うたというのは、飛び上がっていわゆる奇病にかかったちゅうことです。

#### <猫が発症>

ちょうどその時に、保健所の一室が、日当たりのいい部屋が空いとったから、そこを網で三カ所に区切りましてね、猫を一匹ずつ。猫ちゅうのは人間と一緒に生活してきた動物で、お魚も好きなんだけどもね。ネズミ退治のために人間が利用しとった家畜なんですけど、非常に清潔屋なんですその猫はどこから来たかという、水俣の猫ではこれは通用しないから、人吉に頼んでね。人吉の保健所におったから、そこに頼んで猫は持ってきてもらった。それに魚を少しずつ食べさせたわけ。そしたら、ある朝、(編者注=聞き取れず)お父さん、隆一郎が走って帰ってきてね、目をギラギラさせて「お父さん、猫が発病しとるよ。」と言うから。見たらまさしく一匹が、猫が奇病、天然の奇病そのものの姿になって涎をダラダラ垂らしとって。それで僕はしめたと思って、実験成功じゃということで、すぐ県庁、それから大学あちこち電話した。走ってきた。すぐは走って来れないけれども、細川先生がまず一番に走ってきた。大学が飛んできた。そして猫を持って帰って調べたら、天然の発生猫と全く同じ病理所見をしておるから。そこで魚を猫に食べさせて人間と同じ様な病気を猫が発生したということで、原因は魚にあるという、科学的な証拠が出たわけです。

#### <原因追及へ>

れはまさしく天佑だったと思いますが、イギリスのハンターさんという人とラッセルさんという学者がたった一例、たった一例、種もみをね、有機水銀で消毒して食べて死んだ人の病理所見を発表しとった。森川先生は、もうそれに飛びついて、「まさしくこれだ」と言うてね。

#### <生産に励む会社>

ところが、会社は、どんどんどんどん生産に励むわけでしょう。うちは、水銀は使ってるけれども、有機水銀なんか使ってないと逃げてるわけです。どんどんどんどん製造はストップしないから、毒ばどんどんどん。今となってみれば有機水銀だからね、有機水銀はどんどんどんどん海に流れてて、熊本大学の入鹿山教授が、工場で使っている水銀が、工場の生産過程の中で、どうして有機水銀に変化していくかということ、ずっと理論的に理論を成立させたわけです。

#### <水俣工場>

水俣の工場はもともと明治時代にイタリーから輸入した、アンモニア肥料の製造工場だ

ったんですよ。その当時、肥料製造は大切なことだった。水俣付近には発電所を造る場所がたくさんあった。その電気を持ってきて、水俣川の水と、空気中の窒素は無尽蔵だから、それを一緒にして、合成して、アンモニアを作った。僕らが小さい時には、鉄道も通っていないし、三角から船に乗って、非常に不便なところでした。陸の孤島でした。しかし、鹿児島本線が通って、東京と時間はかかってもね、直通するようになりましてから、非常に文化都市になって。そして非常に景気が良かったわけですから、熊本市よりも。

<財政再建団体>

熊本県は財政再建団体というところで指定されとって、お金もないし、また県から金をもらうにしても手続きが要るし暇が要るで、そういうことをしとっちゃ間に合わんと。

「とにかく患者さんを熊本の大学に来てもらおう。そしてよく調べよう」というような話にもなりました。

#### ■ 解題 伊藤蓮雄・水俣保健所長のテープについて

・公式確認は一九五六（昭和三一）年五月一日。水俣市のチッソ付属病院から、脳症状を呈する原因不明の疾病が発生し、四人の患者が入院した、と水俣保健所に報告。

・伊藤は一九九一（平成三）年八月に八〇歳で亡くなったが、亡くなる二カ月前の六月、小学校で公害を学ぶ孫娘にあてて病床で録音したテープを残した。テープは、公式確認翌年である一九五七年に撮影された八ミリビデオとともに、伊藤の長男・隆一郎が保管している。八ミリ撮影は蓮雄の趣味だったが、八ミリは当時を知る貴重な記録となっている。録音されたテープは二本。両面に録音された一本と、一部内容が重複する一本である。なぜ二本あるのか。内容から考えて、一本は前の録音の「言い直し」ではないか、と隆一郎は推察する。

・伊藤蓮雄は本籍熊本市。一九一一（明治四四）年生まれ。第五高等学校から熊本医科大学卒。軍医などの後、一九四七（昭和二二）年に人吉保健所長、一九五四年一月に松橋保健所長、同年一二月に水俣保健所長。水俣保健所長は熊本県衛生部医務課長になる一九六三年まで。この間二つの処分。一つは一九五八年一〇月の水俣保健所の火事に関し、戒告処分。現地責任者としての処分と思われるが、保健所の全焼で水俣病に関する関係書類も焼失した。

もう一つは、一九五九年五月に選挙違反事件に関係して減給処分。同年一月にあった熊本県知事選は四選を目指した現職・桜井三郎と新人・寺本広作の一騎打ち。県職員からも選挙違反容疑で多数の逮捕者。四月には現職の桜井を支持した県職員について、降格四一人を含む異動が発令され、伊藤の処分もこの一連のものという。

・水俣病の公式確認となるきっかけはチッソ付属病院からの届け出。届けたのは付属病院小児科医師の野田兼喜。両親の移民先・ペルーで生まれ、その後矢部町に帰郷。熊本医科大学へ進み、チッソ付属病院に赴任したのは一九五三年八月。一九五六年四月二三日。当時五歳五カ月の田中静子が付属病院を受診、野田が診察した。

「当時、付属病院に来ていたのは、会社の社員や家族ばかり。一般の人はめったに来なか

った。(静子さんは) 開業医の紹介で、お母さんに連れられて来た。診てすぐに脳の疾患だと思った。しかし脳炎や髄膜炎とは発病の状態が全然違う。まったく経験のない病気だった。間もなく妹の実子が入院してきた。二歳一カ月。一家は水俣市月浦の坪谷つぼたんという小さな入江に住んでいた。「その時、お母さんから『近所にまだ同じような子どもがたくさんいる』と聞かされた。大変なことになると思って、すぐ細川院長に相談した。院長は『調査は保健所をお願いした方がよい』と言われた。人吉時代に知り合いだった伊藤蓮雄つばたけ所長に口頭で、お母さんの話や姉妹の症状を話して、『調べて下さい』と頼んだ。伊藤とは知り合い。伊藤が人吉保健所長で、野田が人吉の病院で勤務していた時のことと思われる。

・野田は水俣出身の詩人・谷川雁と旧制熊本中学の同級生。「雁ちゃんに話したら、『そら会社よ、会社ば調べなん』て言いよった」。谷川雁は病氣療養などで水俣に帰郷していたことがあり、細川とも交流があった。細川の愛読書であったイプセンの戯曲「民衆の敵」は谷川雁が細川に勧めたものだった。「民衆の敵」はある観光地で起きた公害の原因を突きとめた医師がそれを発表しようとして、兄である町長や民衆から「敵」として指弾される作品。

・生前の野田に筆者も直接会ったことがあるが、朴訥ぼくとつな人柄がそのまま顔に出ているような人で、地域医療に向きあった人生だった。一九六四年一月、日本医師会から、水俣病発見者として最高優功賞を贈られている。

・公式確認に関係し、現存する文書で一番古いのは一九五六年五月四日付の熊本県水俣保健所長から、熊本県の衛生部長にあてた「水俣市宇月浦附近に発生せる小児奇病について」である。タイトルが「小児奇病」となっているのが示唆的。水俣病はまずは弱者である子どもたちに現れ、そして、大人の被害が判明していく。

・伝染病用の避病院とはどんな所だったか。語るのは熊本大学医学部第一内科の徳臣晴比古である。徳臣はその後、臨床面から病因物質として有機水銀であることを突き止め、後にいうハンター・ラッセル症候群を主張する人。

「その土間に一歩足を踏み入れた私は、吹き出していた全身の汗が一瞬凍りつくような殺気に身を縮こませた。若い婦人であろう。黒髪を振り乱して、頬ほほがこげ、皮膚は灰色をしている。虚空を見つめ、言葉にならない唸うめき声を上げて手足をバタつかせ、のたうち回っている。木製のベッドの端々に体を打ちつけて、皮膚は破れ、血にじが滲んでいる。時々、激しいひきつけが全身を硬直させて潮の如く去ってゆく」

・「水俣病の民衆史」(全六巻)を著した岡本達明によれば、水俣は明治以来、コレラ、天然痘、赤痢という具合に伝染病が多い所で、「避病院は明治二三年に設立されるんですが、ここに医者がいるわけではないんですから、ここに入れられたら、もう死に行くようなものだというのが住民の中に徹底されていた」という。

・時の熊本県の状況を知る上で重要ことの 하나가、熊本県の財政状況。

県が財政再建団体に指定されたのは水俣病公式確認に先立つ一カ月前の一九五六年四月一日。自治省(当時)の管理下に置かれ、起債が制限されるほか、大半の単独公共事業は凍結、再建計画以外の事業はすべて同省の許可が必要になる。

一九五六年度に財政再建団体となった府県は熊本県を含め一八府県。国の財政が悪化し、地方交付税も減少。引き揚げ者などで人口は増えるものの、行政の負担は増える一方で税収は増えないという構造的なものもあった。本の場合には一九五三年に起きた六・二六水害の影響も。熊本市を流れる白川が氾濫、五〇〇人を超える犠牲者。熊本県財政課が作成した資料では一九五三年度の当初予算額は約五九億円だったが、最終予算額は約一二七億円と、当初予算の倍以上に。県財政の大きな負担となっていく。水害は一九五七年七月にも熊本市近郊の金峰山一帯で発生、二〇〇人近い死者を出した。

財政再建団体としての期間は計画では当初七カ年だったが、結果的には二年前倒しの五年間、一九六〇年度で終了することになる。一九五〇年代後半の神武景気、岩戸景気による税収の伸びがあったほか、県職員の削減、職員の昇格、昇級の延伸、全日制高校の授業料値上げ、物品費の一五%カットのシーリング、投資的事業も七五%に抑えた。「義務的経費の執行だけをやっている感じで、なえたような気分の中での仕事だった」。当時を知る元県職員。こうした中で一九六〇年には熊本国体が開催されたが、財政難で国体用のプールや野球場を新たに購入する費用もなかったことから国有地である城内に建てられ、それが県営城内プール、藤崎台県営野球場となった。

こうした取り組みの結果、一九六〇年度決算では一般会計の歳入総額は約二〇三億円、歳出は約一九七億円で約六億円の剰余金を計上、県財政は翌年からの自主財政に戻った。

・「水俣病」と題する一九六二年執筆と思われる原稿。水俣湾魚介類の水銀量を紹介している。「昭和34年度東京教育大のイサキ調査は水銀量（平均値）19・25 ppm、昭和36年（熊本衛研）のチヌが2・575 ppm」とある。これについて「昭和34年に比し昭和36年では水銀量が約七分の一に減少していることが患者多発を見ない原因かもしれません」と書いている。分析法など詳細な説明などが無いのでこの数字をめぐる評価はできないが、現在の魚介類の暫定規制値（総水銀0・4 ppm）からしても大きな値だ。原稿では「水俣市は熊本県の最南端に位置する新日本窒素工場の設立によって発展して来た人口五万の小都市であり、現に工場の存在によって市の経済は支えられているのですから仲々デリケートな問題もある訳です」と書き、保健所長としての伊藤の立場の微妙さも。

・水俣病が確認された一九五六年五月一日は、水俣港が貿易港として開港した日。第一船が仏印（フランス領インドシナ、現在のベトナム）から入港している。

・伊藤のテープにも出てくる長男の隆一郎にも、保健所での猫実験の印象は強く残っている。隆一郎が水俣一中の一年生の時である。

・後にチッソの専務となる入江寛二と蓮雄は旧制第五高等学校の同級生で、当時水俣にいた入江とはお互いよく行き来していたという。当然、二人の間では、「奇病発生」や原因究明、猫実験も話題になったものと思われる。

・蓮雄は熊本県衛生研究所が不知火海一帯で行った毛髪水銀値調査で三八・八 ppm。採取日は一九六一年一月一〇日。伊藤自身の毛髪水銀値の問題や一九六七年から一九七六年まで務めた熊本県衛生部長としての水俣病との関わりなどについては全く別の考察が必要だ。